

平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化し、一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業も進んでいる。25 年度は特に甲斐の恵林寺所蔵品の悉皆調査を行なった。

広報・普及活動では、公開講演会や、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行として『栄西の道』、『馬祖の語録』の電子ブック版、『聖域巡礼ー私の目から見るチベットー』、童話『おしゃかさま』を刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、宗務所管理システムの機能追加への対応、受注のシステムとして、大本山佛通寺の末寺管理システムの構築と納品を行なった。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務（遠諱事業）及び大本山相国寺の委託業務を行なっている。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

唐代語録(『祖堂集』)研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣

に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に40年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第8冊、2003年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は、巻十の鏡清和尚（全四十則）の第十四則より第三十九則を読了した。また『禅文化研究所紀要』第三十二号（2013年11月）に「『祖堂集』巻七雪峰和尚章訳注（下）」を掲載した。

研究会の開催日は、4/26、5/10、5/24、6/14、7/12、9/27、10/25、11/8、11/22、12/13、1/24、2/14、3/14。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／川島常明（大通院住職）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／古勝亮（京都大学博士後期課程）／鈴木洋保（花園大学非常勤講師）／鈴木史己（京都大学博士後期課程）／オズヴァルド・メルクーリ（花園大学大学院）／土屋昌明（専修大学教授）／小川太龍（花園大学非常勤講師・常楽寺）／橋本和雄（国際禅学研究所研究員）／小宮山祥広（仏楽学舎）

「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は、休会となった。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北畠利信（花園大学非常勤講師）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師・正眼短期大学講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）

「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全30巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は、前年に引き続いて、巻十六・楽普元安禅師の定稿化を進め、雪峰義存章に進んだ。

研究会の開催日は、6/3、7/28、9/16（台風中止）、11/17、1/6、3/30。

班員：衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保讓（花園大学科目等履修習生）／三浦國雄（大東文化大学教授）／土屋昌明（専修大学教授）／下定雅弘（岡山大学教授・北京事務所長）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）／齊藤智寛（東北大学準教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）／石井修道（駒澤大学教授）／小川隆（駒澤大学教授）／須山長治（駒澤大学非常勤講師）／オズヴァルド・メルクーリ（花園大学大学院）／中木 愛（龍谷大学専任講師）／古勝亮（京都大学博士後期課程）

宋代禅語録勉強会〔幹事 藤田琢司〕

僧俗を問わず語録を読む楽しさを知ってもらうため、古来の禅僧や高德の大夫等の逸話

を集めた『林間録』をテキストに会読を進める。今年度は巻下 48 丁（162 則）まで読み進めた。開催日は、4/22、6/17、7/22、9/30、10/21、11/25、12/9、1/20、2/10。

なお、本勉強会は今年度をもって終了し、次年度からは、宗門や一般向けに禅録を読むための入門講座を開講する。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽經』四卷本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストとして、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら読み進めている。

本年度は巻三第 99 段より巻四第 110 段までを読み進んだ。

研究会の開催日は、4/22、5/27、6/24、7/22、9/30、10/28、11/25、12/16、1/27、2/24、3/24。

班員：西口芳男（禅文化研究所）／小嶋孝（東洋大学大学院哲学専攻・仏教学専攻博士前期課程終了）／種村辰男（塾講師、FAS 協会会員）／水野和彦（花園大学大学院博士課程）／李薇（花園大学大学院）／李忠煥（花園大学大学院）／李子捷（龍谷大学仏教学専攻修士課程）

臨濟宗經典研究〔班長 西村恵学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や經本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。平成 24 年度は既刊の『諸回向清規式抄』の内容を再確認して重版した。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成 25 年度も、「大蔵会」としての仏典研究会を年 4 回ほど開催し、「華嚴五教書」の講読研究完了（平成 24 年 2 月 24 日）の後は、5 月 19 日より、新たな仏典研究会として、世親の『唯識三十頌』の講読研究を上田閑照先生のご指導のもと開始した。8 月 4 日、10 月 27 日、1 月 12 日、3 月 23 日と既に 5 回の研究会をして、第 19 節まで購読が進んでいる。チューターは大井和也氏が努めている。

なお同じく上田先生のご指導のもと、西田哲学研究会と西谷研究会も各通年 4 回の頻度で継続している。西田哲学研究会では、『意識の問題』を終え、次回より『芸術と道徳』に入るところであり、西谷研究会では「般若と理性」を終え、次回より「覚について」・「空と即」に進むことになっている。同時に夢窓国師の『夢中間答』も「上の七 神仏の効験」まで読み進んだ。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

明庵栄西研究〔担当 藤田琢司〕

日本臨済宗の祖師である栄西禅師の著作の所在調査と収集作業を行ない、総合的な資料集として刊行する。今年度は訓読・語注・索引などの作業をすべて終了し、「栄西禅師集」として26年3月に刊行した。

「寂室語録」研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光の語録の解説および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格的な検討がなされたことがなかった。これまで、天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行ってきたが、本人が病気長期療養に迫られたため、能仁晃道が後任となり研究を進めている。

「延宝伝灯録」研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記を、卅元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

「白隠」研究〔担当 芳澤勝弘〕

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行なった。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。平成25年度には、書籍刊行物として、八百年遠諱をまもなく迎える栄西禅師の足跡ガイドブックともいえる『栄西の道』、長らく絶版になっていた『馬祖の語録』の電子ブック版の販売、北京在住の研究員、李建華氏の著『聖域巡礼ー私の目から見るチベットー』、童話『おしゃかさま』を刊行した。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動していく。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。平成25年度には、山梨県甲州市の恵林寺所蔵品の悉皆調査を行

なった。また、禅文化研究所 50 周年記念展にむけて、所蔵書画軸の全点（約 390 点）の写真撮影も行なった。なおこれらの調査には、花園大学歴史博物館と強く連携している。

またシステムをおくサーバーの移転にともなって、新たにみつかった不具合を洗い出し修正を行なった。

一般寺院什物データベース

①に該当しない一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し、当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨し、理解を得られた寺院のデータ入力を順次行なっていく。既に導入決定済みの八百津の大仙寺、甲斐の恵林寺への納品のために、現在データ入力処理中である。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室所蔵品の整理・公開(利用)

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分を当研究所で開発した資料管理ソフトを用いて順次入力した。オンライン蔵書検索への対応も検討中。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。今年度の購入冊数 3 冊。

WEB版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨跡展として随時公開した。

禅文化研究所墨跡曝涼展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。平成 25 年 4 月 2 日から 6 月 8 日に、花園大学歴史博物館と共催で、「大圓寶鑑國師 350 年遠諱記念 大仙寺展」を開催した。

また、この展覧会の図録は花園大学歴史博物館から発行され、その作成協力を行なった。

黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。但し、今年度の追加登録はなし。

問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

雪江宗深禅師の命日について（個人）／多治見の永保寺史に関する質問（個人）／与謝野晶子の歌の出典（個人）／「言中有響」について（個人）／おかんきに読むお経について（個人）／永保寺の天ぜい宮について（個人）／謡曲「融」詞章の出典について（寺院）／「清浄行者不入涅槃、破戒比丘不墮地獄」の出典と意味（寺院）／一休の歌の出典（読売新聞社）／長岡文海について（亀岡文化資料館）／徒然草講話より（寺院）ほか、墨蹟や落款の読みなどを含め 30 件。その他電話による質問多数。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、

データの修正や新規登録などを行なった。

〈3〉 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、228号～231号を発行した。主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 3,226名。

2. 研究成果の刊行

中国禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①電子書籍版『馬祖の語録』 入矢義高編 (平成26年5月刊行)
昭和59年に初版が発行され、長らく絶版品切となっていた『馬祖の語録』を電子書籍として復刻。25年度は13部の売上。

日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ①『栄西禅師集』 藤田琢司 (平成26年3月刊行)
初版800部 建仁寺開山栄西禅師の著作集。遠諱記念として大本山建仁寺に納めるとともに一般に向け26年度に頒布する。
- ②【重版】 『校訂本 宗門葛藤集』2刷500部、『新版引導法語大全』2刷150部
『江湖法式梵唄抄』300部、『粉引歌』2刷500部

禅宗經典研究班の成果

- ①【重版】 『臨濟宗檀信徒葬儀法』2刷500部、『臨濟宗檀信徒經典』11刷5000部
『臨濟宗檀信徒經典CD』2刷1000部

マルチメディア研究班の成果

- ①2014年禅語カレンダー 画賛・東嶺圓慈 (平成25年9月刊行)
初版50,000部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ②『聖域巡礼』 李 建華 (平成25年8月刊行)
初版1,500部 チベット旅行記。季刊「禅文化」に26回にわたった連載の単行本化。
- ③『おしゃかさま』 森 美鈴 (平成25年12月刊行)
初版1,000部 京都在住の熱心な禅仏教の信者である著者による絵本。
- ④【重版】 『How to do ZAZEN』2刷2000部

その他

- ①『禅文化研究所研究紀要32号』 (平成25年11月刊行)
今号より、基本的に電子版のみとし、紙媒体での印刷は100部にとどめた。なお電子版は、無償配布する。

3. 公開講義「禅思想の諸問題」 [講師 西村恵信 (所長・花園大学名誉教授)]

所長による講義で、『増註 證道歌直截』二卷二冊(萬回一線撰)をテキストに一般社会人を対象に禅の基本思想を平易に教える。毎週火曜日開催を原則とし、今年度は40回開催した。約20名が参加。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

昨年度全面リニューアルを行なったホームページのコンテンツ更新を行なった。また、英文版のページを公開。

臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。臨黄ネットホームページをリニューアルし、御用達市場のシステムも新たに構築し治した。

5. 禅検定

運営方法について実務レベルの検討を重ねた結果、人的・資金的な課題が多く、継続して実施することが難しいため、事業自体を一から見直すこととした。検定とは違う手段で一般人に対して普及する方策を考える。

6. 公開講演会等

公開講演会

『大仙寺展』の記念講演会として、下記の2回の講演会を実施した。

■平成25年5月8日（水）13:30～14:30

「中世の大仙寺」 横山 住雄 氏（濃尾歴史文化研究所主宰）

■平成25年6月5日（水）13:30～14:30

「愚堂禅師の禅」 河野 太通 老大師（妙心寺派管長）

第11回 禅と文化の旅 平成25年11月28日

禅の教えと文化に触れる1日バスツアー。相国寺塔頭・慈照院と承天閣美術館を訪れ、銀閣慈照寺の特別参拝ならびに慈照寺研修道場にて、所長の講演と慈照寺花方・珠寶氏による献花を拝見した。

教化・運営の実践講座

寺院の公益性が求められるなか、僧侶や寺族が、より踏み込んだ知識や技能を身につけ、寺院の活性化につなげるための実践講座。平成25年度は10のセミナーを開講し、一般も含め約127名が受講した。京都以外からの参加者が目立った。ほぼ高評価を得られたが、1コマの講義が一時間半では内容が中途半端になってしまったため、次年度からは、時間配分を見直して、また継続したい。

7. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進した。また、ブログ禅、メールマガジンの発行、あるいはTwitterやFacebookなどを利用して、より広範囲に普及した。今年度は一般向けの新刊点数が少なかったことから書店への積極的な営業活動ができなかった。

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／相国寺（承天閣美術館）／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／慈照寺（相国）／高台寺（建仁）
酬恩庵（大徳）／龍潭寺（妙心）／東慶寺（円覚）

Ⅱ. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を行なった。最新の Windows 8 にも既に対応済み。また、擔雪Ⅲの開発検討に入った。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

妙心寺派布教師会管理システムの構築

システムの修正や追加要望に対応した。

相国寺資料目録DBの構築

共益事業で受託している相国寺資料の整理に伴い、整理した資料のデータベースを構築しているが、その資料を閲覧するためのシステムを受注し、制作を完了した。現在運用方法について打ち合わせ中。

南禅寺派管理システムの機能追加

システムの追加要望に対応し完了した。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの機能追加要望に対応した。

曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

保守契約によるシステム保守を行なった。

天龍寺派管理システムの運用サポート

末寺管理等のシステムの運用をサポートした。

佛通寺派管理システムの開発打ち合わせ

末寺管理等のシステムを開発し、平成 25 年 6 月に納品した。

3. 宝物管理システム「禪の至宝」Windows 版の開発

一般寺院がデジタルアーカイブデータを管理するための宝物管理システム「禪の至宝」Windows 版の開発を行ないほぼ完了した。販売は準備が整い次第開始したい。

4. 蔵書管理システムの開発

寺院等で所蔵される大量の書籍を管理するためのデータベースシステムの開発を行ない完了。昨年度、天龍寺国際宗教哲学研究所に導入され、今年度は東京野沢の龍雲寺様に納品した。

5. 出版物頒布

他社から委託を受けた禪に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禪一如 日暦」・「干支色紙」（千真工芸）、「家族に想いを伝えるエンディングノート」（角川書店）、「送喪儀」・「禪聖典」（連合各派布教師会）、「禅画に込めたメッセージ 白隠展図録」（Bunkamura）、「白隠 一衆生本来仏なり」（別冊太陽 日本のこころ）、「いろはにほへと 一ある日の法話より」（一、二）（黄梅院）等

〈2〉 共益事業

1. 大本山相国寺所蔵資料の整理等

①相国寺寺史編纂事業の補佐

前年度に引続き、相国寺の史的研究に関わる、近世から近現代にかけての資史料類の調査・研究の補佐等を行なった。

②大本山相国寺所蔵資料の整理・管理

前年度に引続き、承天閣美術館管轄の図書資料類の整理・管理を行なった。

2. 寺院委託出版

①『栄西』（建仁開山千光祖師 800 年大遠諱記念・建仁寺発行／平成 26 年 3 月）

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて、適宜、訓注の適用を行ない、データベースの補完をした。現在の登録済み数 287 法語。

4. 臨黄合議所事務局

○年間会議

平成 25 年 4 月 11 日（木）	理事会（大徳寺派宗務本所）
平成 25 年 6 月 26 日（水）	総会（大徳寺派宗務本所）
平成 25 年 9 月 5 日（木）	理事会（大徳寺派宗務本所）
平成 26 年 1 月 20 日（月）	理事会（ANAクラウンプラザホテル）
平成 25 年 7 月 23 日（火）	教学部長会（花園大学教堂）
平成 25 年 11 月 8 日（金）	教学部長会（花園大学教堂）
平成 26 年 1 月 24 日（金）	教学部長会（花園大学教堂）

○「臨黄会報」の発行 39 号・40 号)

○臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業の推進

各専門部会の開催とチラシの制作・配布等を行なった。

○臨黄互助会の促進

○中国仏教界との交流（日中臨黄友好交流協会）

○第 10 回臨黄教化研究会の実施(平成 26 年 2 月 6 日・7 日)

○会議等の事務処理